



栗田工業株式会社

第 2 回

# ESG説明会

---

(証券コード : 6370)

2022年3月11日

## 目次

- 1** | クリタのコーポレートガバナンス改革 ..... p 1 - 6
- 2** | 価値創造を実現する人材戦略 ..... p 7 -15
- 3** | 社会との共通価値創造の推進 ..... p16-24

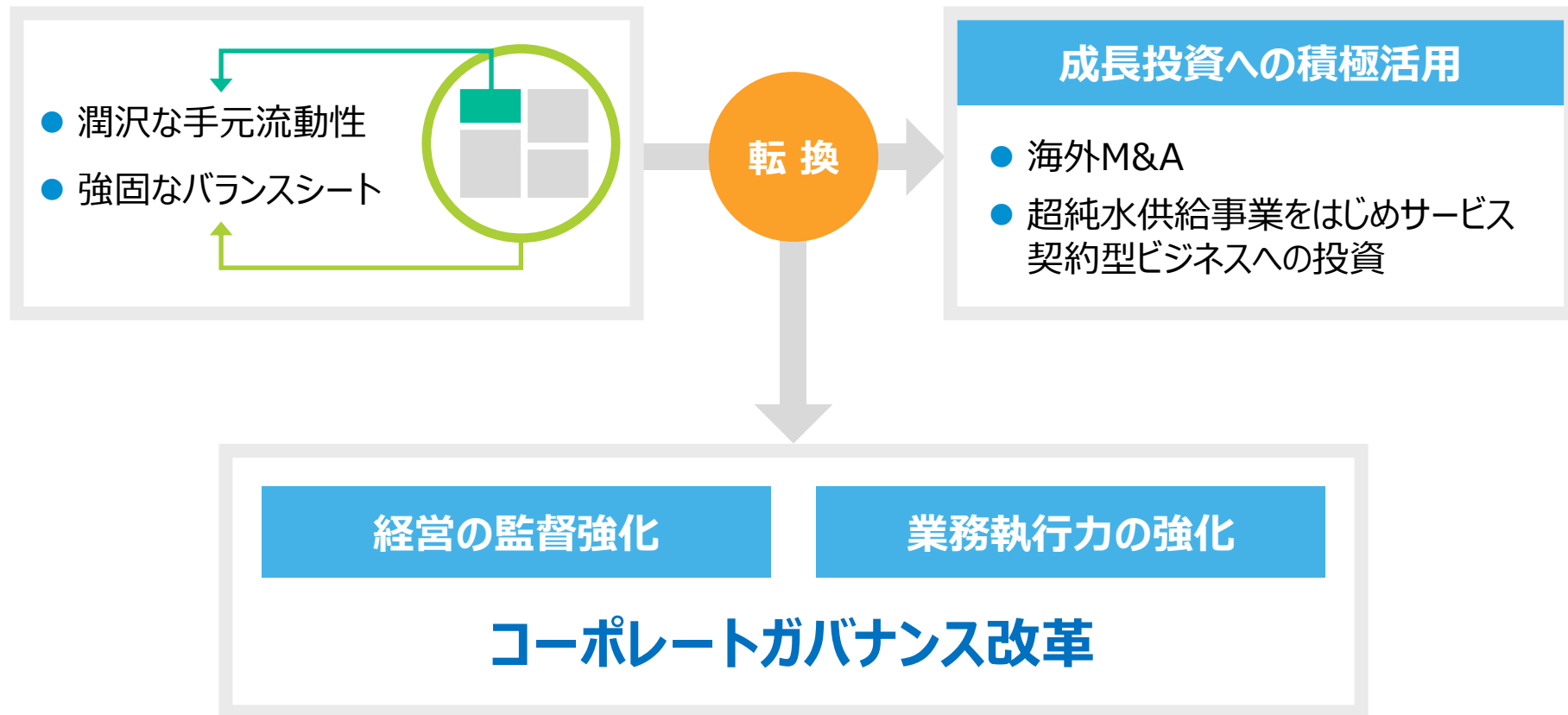
# 1 | クリタのコーポレートガバナンス改革

---

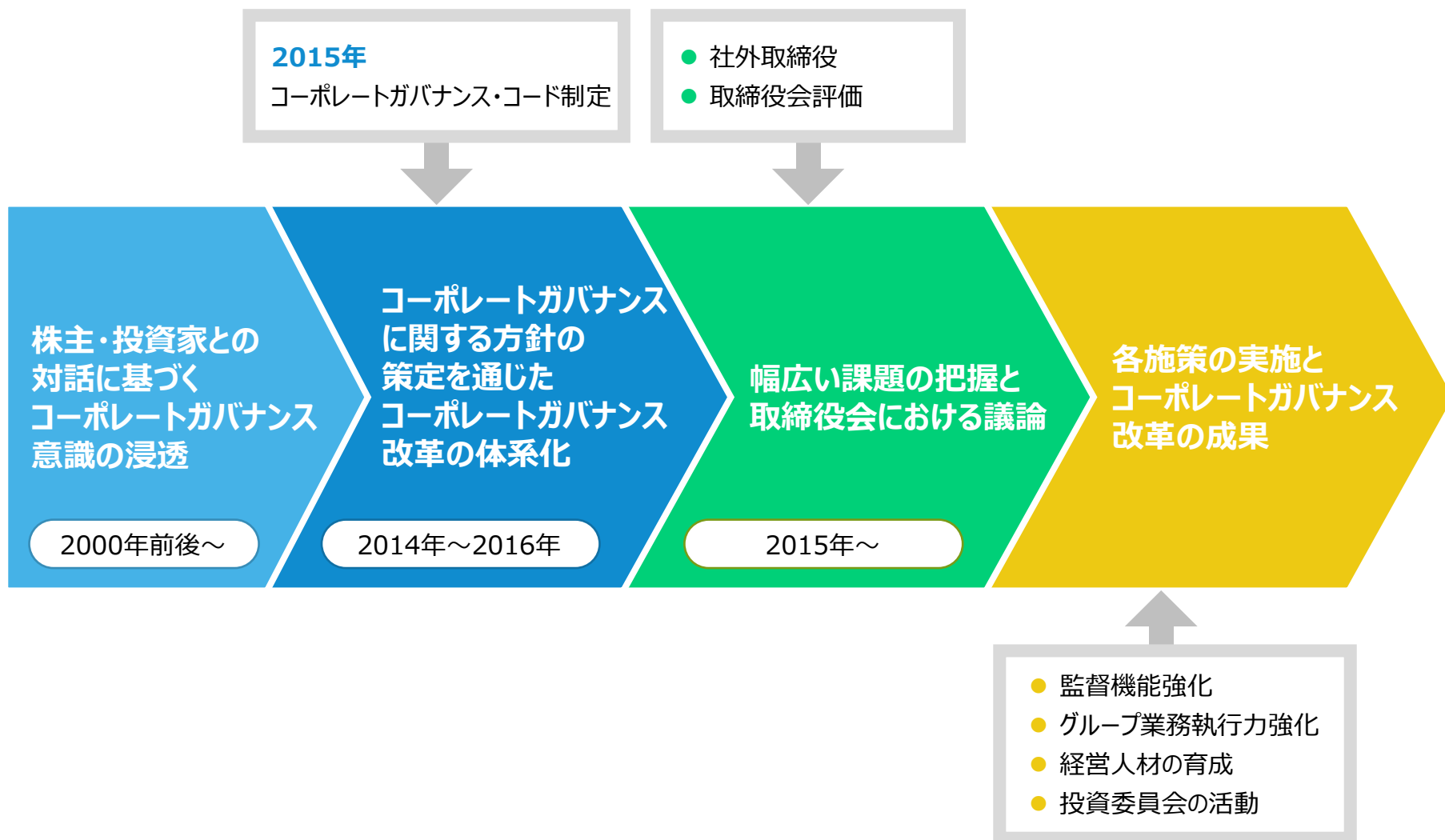
代表取締役社長

門田 道也

## 積極果断なリスクテイクが必要とするもの



## 方針による体系化と施策の実施



## 取締役会の監督機能へのシフトと執行役員体制の強化

|       | 2015/3期 | 2022/3期 |
|-------|---------|---------|
| 社内取締役 | 9人      | 5人      |
| 社外取締役 | 1人      | 3人      |
| 執行役員  | 9人      | 12人     |

### 執行役員の権限と責任 (2019年3月期以降)

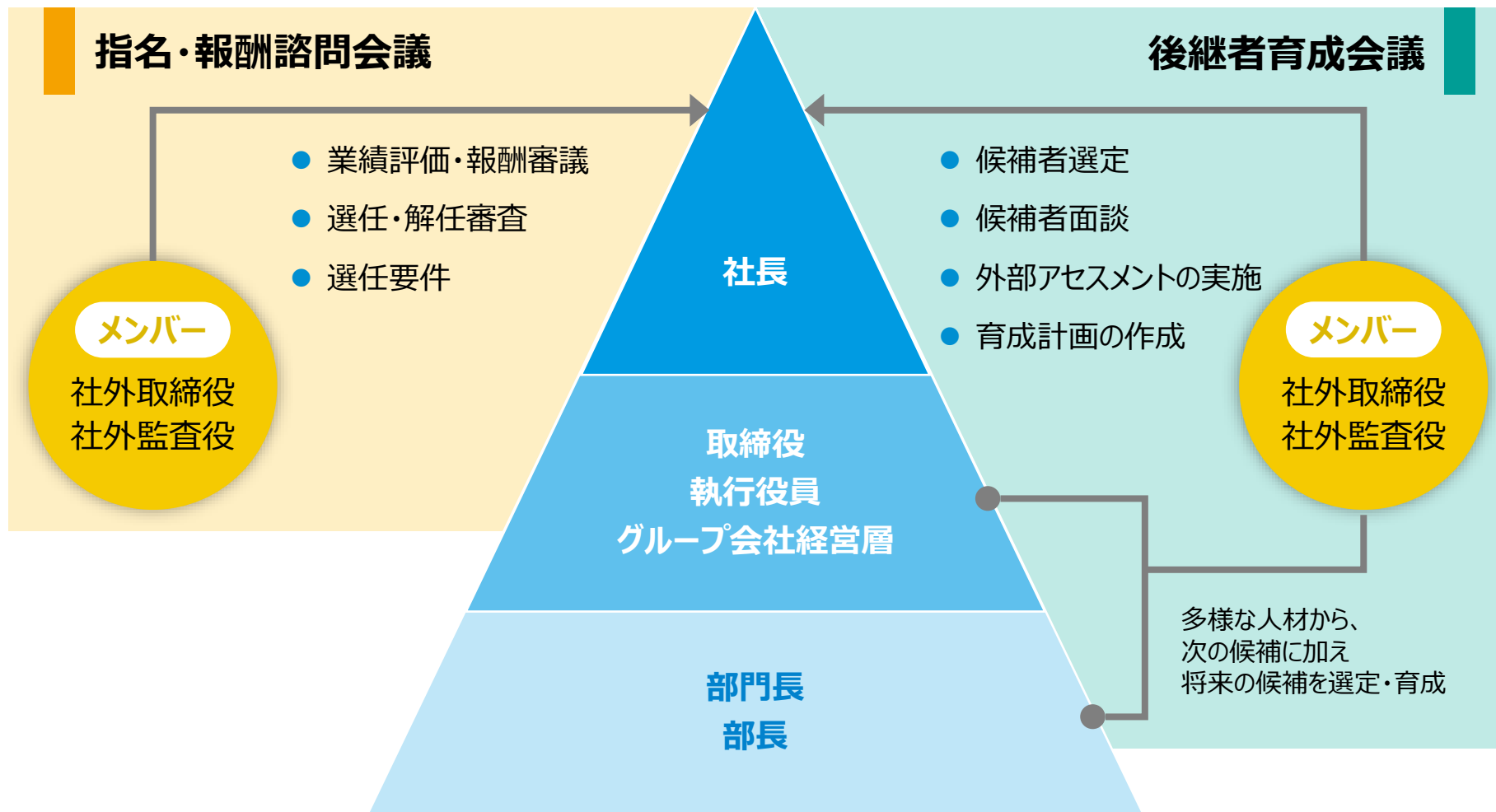
取締役会の監督のもと業務執行を行う  
**経営幹部**

1年間の  
**委任契約**

取締役と同様の  
**業績連動型報酬**

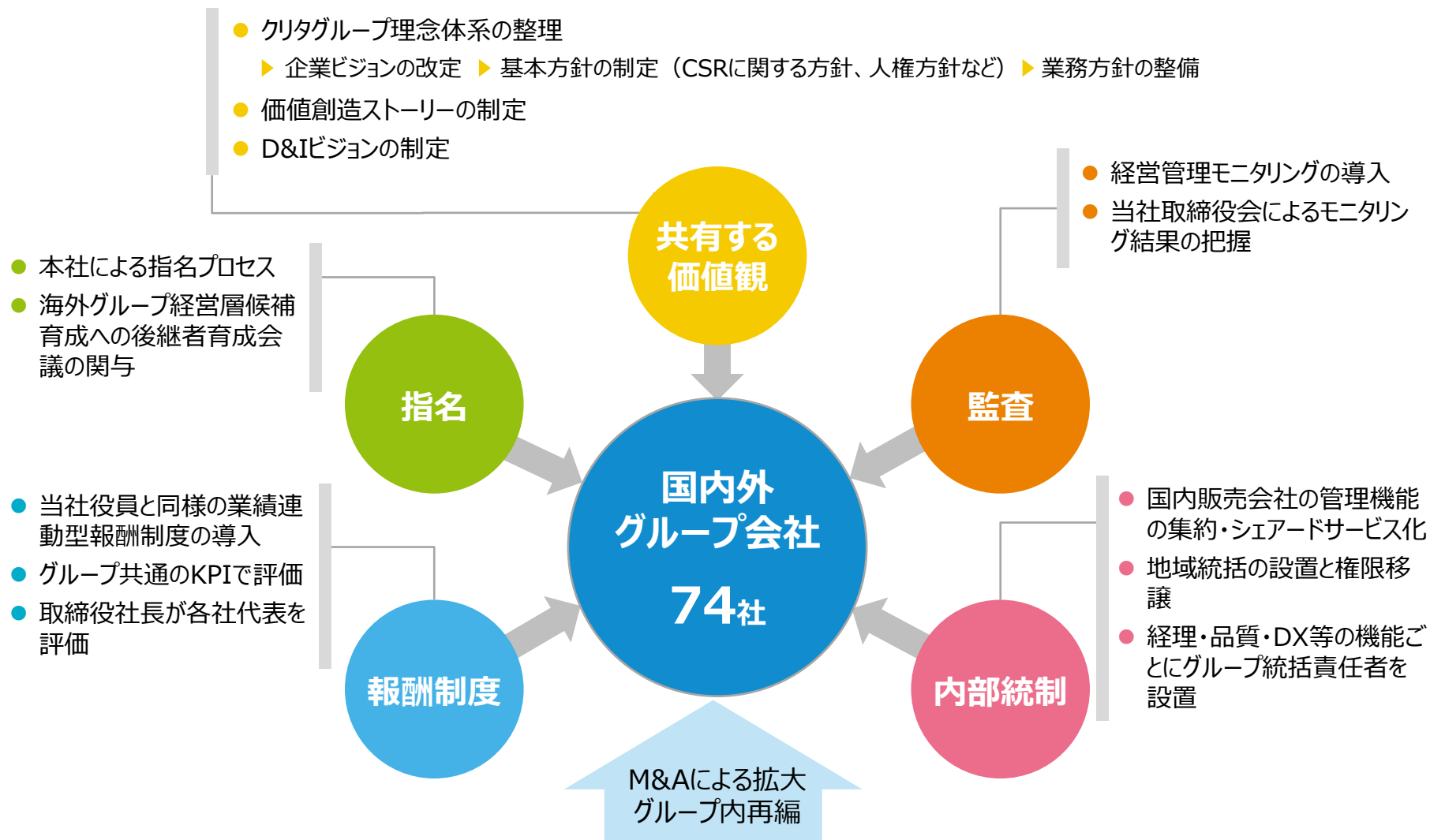
**指名・報酬諮問会議**  
で評価

## 長期的に人材を輩出する仕組みづくり



注) 社長以外の指名・報酬には社長が、後継者育成には社長と専務が、会議メンバーに含まれます。

## グループの業務執行力をガバナンス面から強化





## 社会との共通価値の創造を支えるガバナンス改革へ



## 2 | 価値創造を実現する人材戦略

---

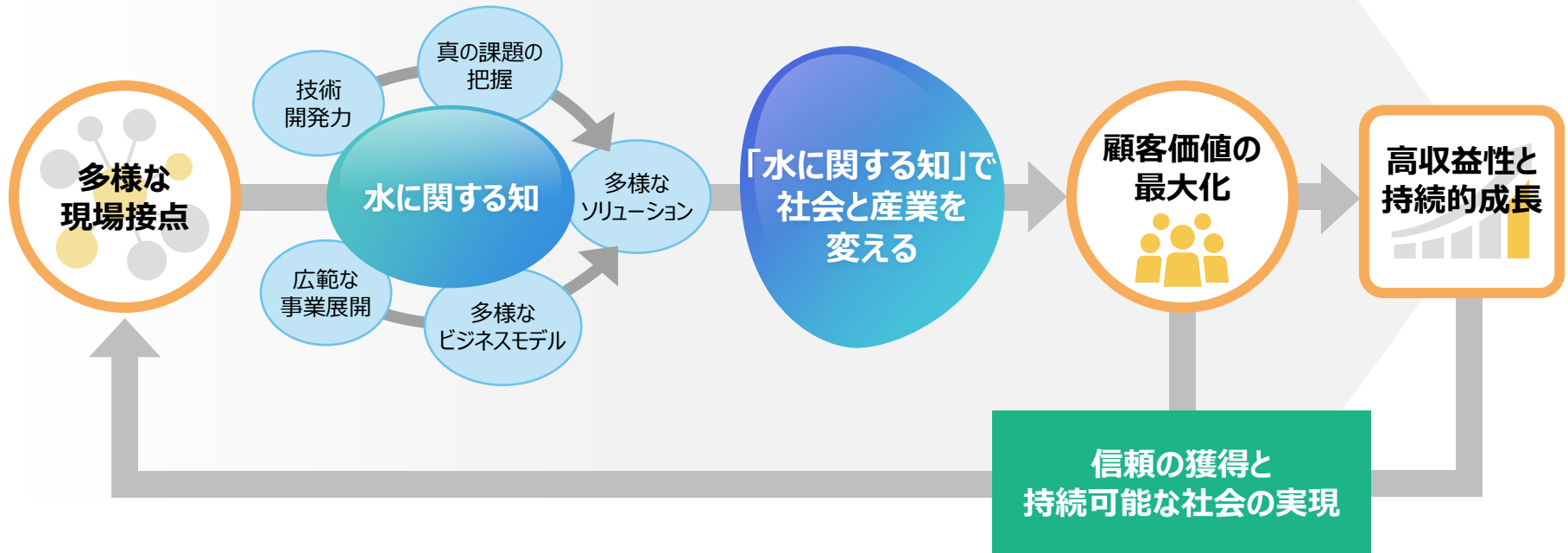
社長室 ダイバーシティ・エンゲージメント推進グループ  
グループリーダー

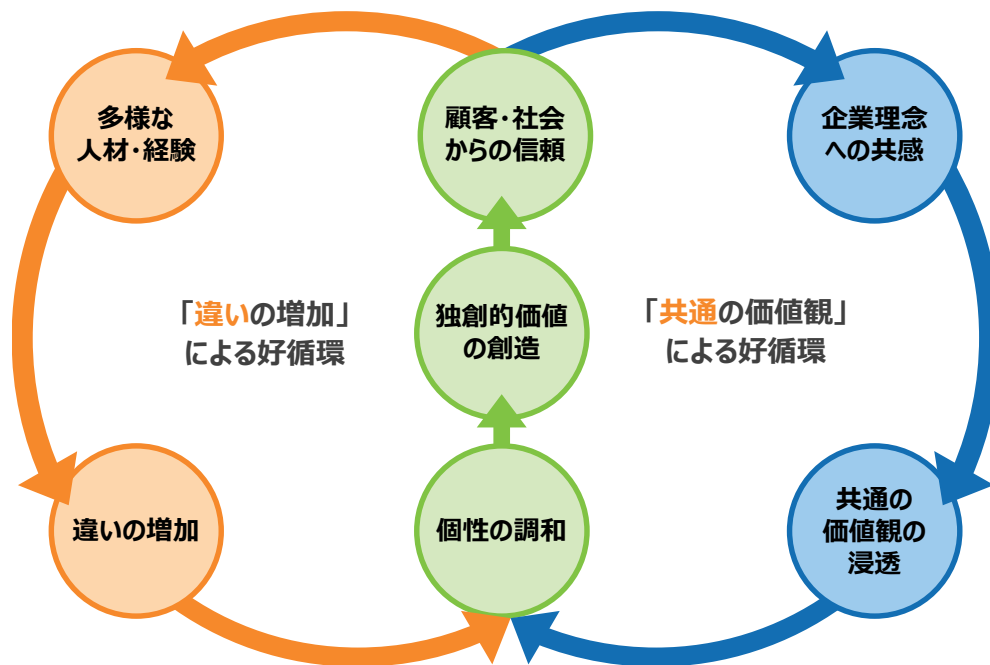
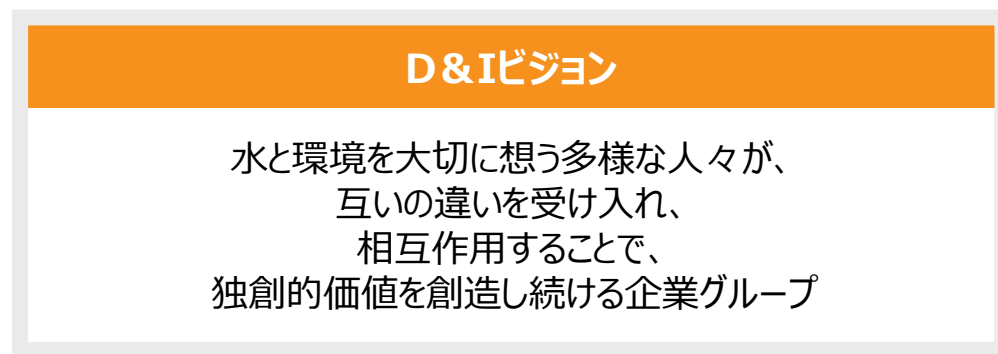
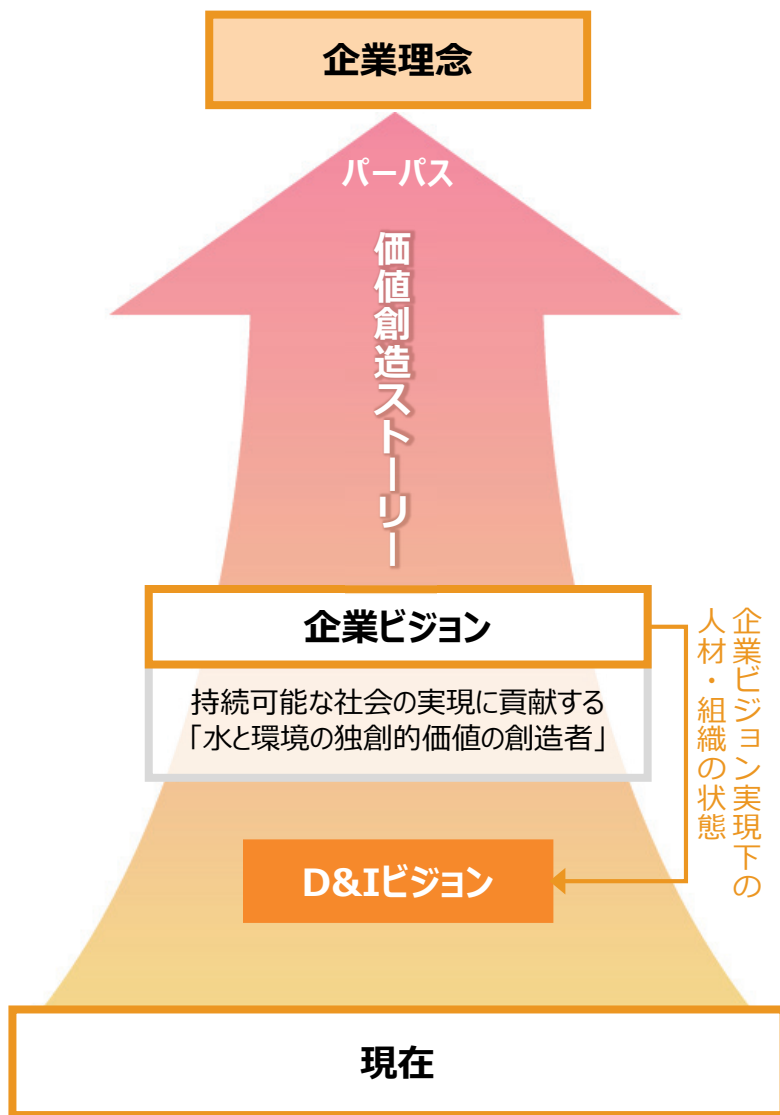
小倉 光博



## 人材が価値創造ストーリーを支える原動力

“水”を究め、自然と人間が調和した豊かな環境を創造する





## 事業戦略と環境変化に基づく方向性を策定

### 人材ポリシー

クリタグループの仕事を通じて顧客・社会・地球環境への貢献に喜びを感じ、  
新たな価値の創出に邁進する多様な分野のプロフェッショナル集団

### 組織に関する方向性

#### 組織文化

- D&Iが浸透したエンゲージメントの高い集団への移行

#### 組織体制

- グループ本社が開発・技術等の機能を統括し、業務水準を向上
- 海外現地社員の活躍

### 人材活用に関する方向性

#### 人材の活用・確保

- クリタを支える技術分野の人材の活躍を継続的に強化
- DXを推進するデジタル人材による新たな価値を創出

#### 人事制度

- 「人材の結束力」に加え、「専門性の高い個人の活躍」を強みとできる制度整備

### 外部環境の変化

- 年功序列や終身雇用といった日本型雇用に対する考えの変化
- 働き方の多様化
- デジタル技術の発達とデジタル人材の需要拡大

### 内部環境の変化

M&Aによる海外事業の拡大

|         | 2014/3期 | 2021/3期 |
|---------|---------|---------|
| 海外売上高比率 | 約20%    | ▶ 約40%  |
| 海外従業員比率 | 約20%    | ▶ 約50%  |

### 価値創造ストーリー

## D&Iの浸透により行動変容を促進

### 取り組みのステップ



### 管理職向け研修・ワークショップ

- 当社管理職256名参加
- D&I・アンコンシャスバイアスの理解と、行動変容の実践として管理職同士の討議を通じ組織間の垣根を取り払い、協働しやすい状態づくりを推進

### 職場討議

- 当社212部署にて実施
- 職場でのイノベーションをテーマに、D&Iと業務のイノベーションとの結びつきについて討議し、各本部でのD&Iにおける現状を把握

### グループ内広報

- 各本部長によるD&Iメッセージムービーの発信

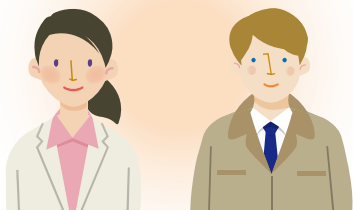


- D&Iビジョンや人材戦略等の紹介



## 人と人が繋がりこれまでにない価値を創造

### 多様な人材



### 多様な人材が活躍する場（例：Project Acorn）



### グループ内外との交流



Kurita Innovation Hub

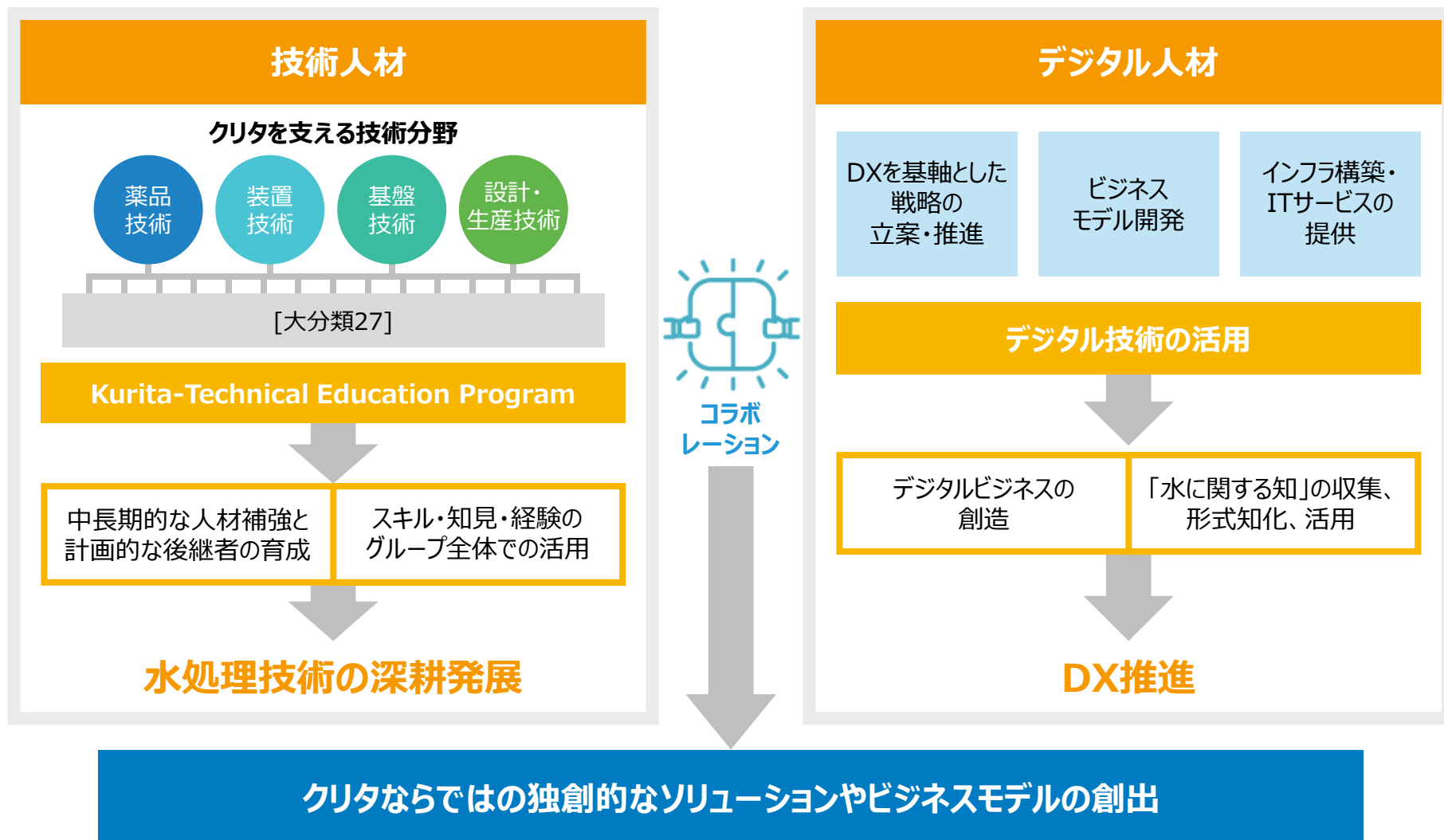


研究機関



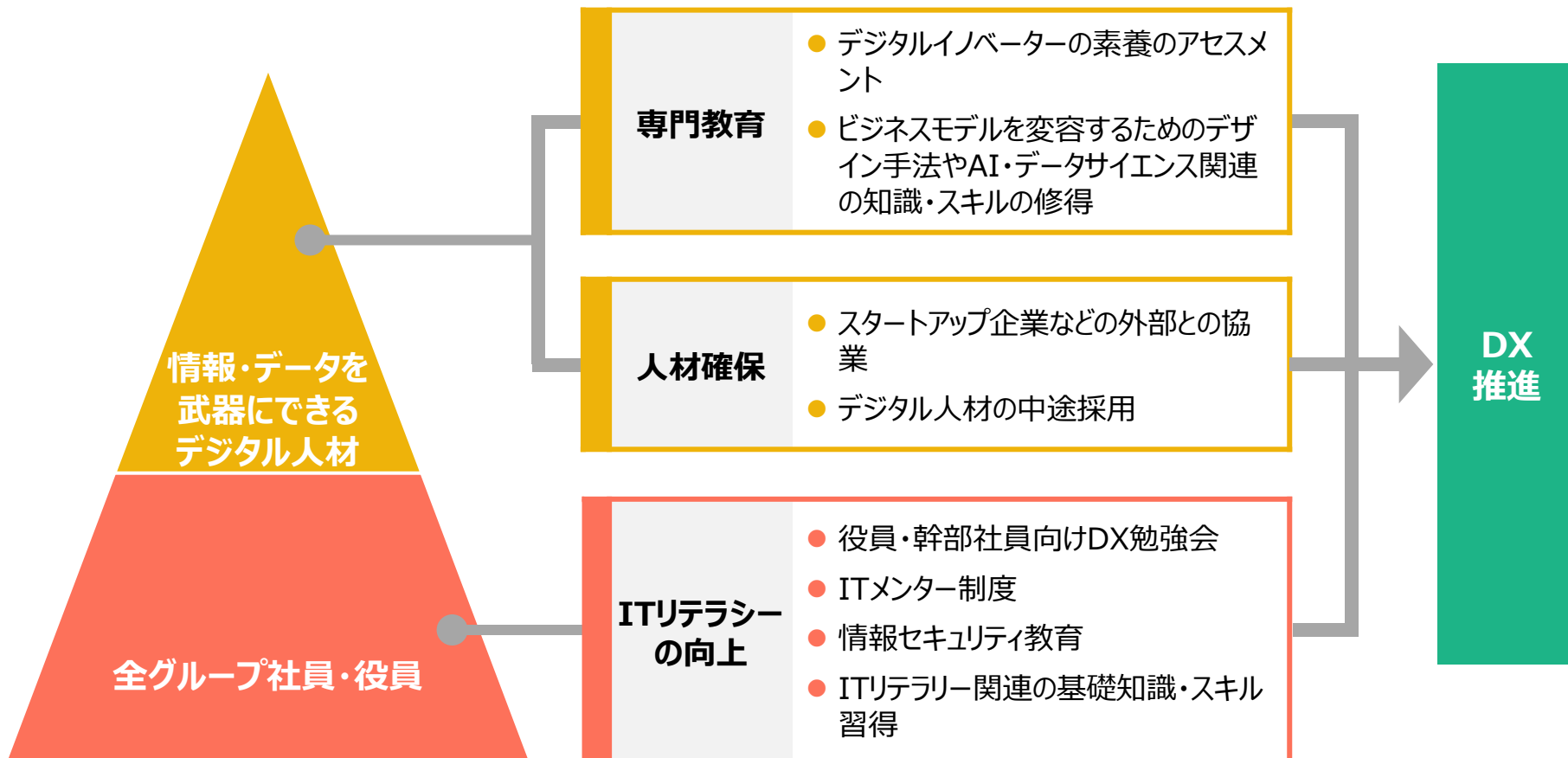
スタートアップ企業

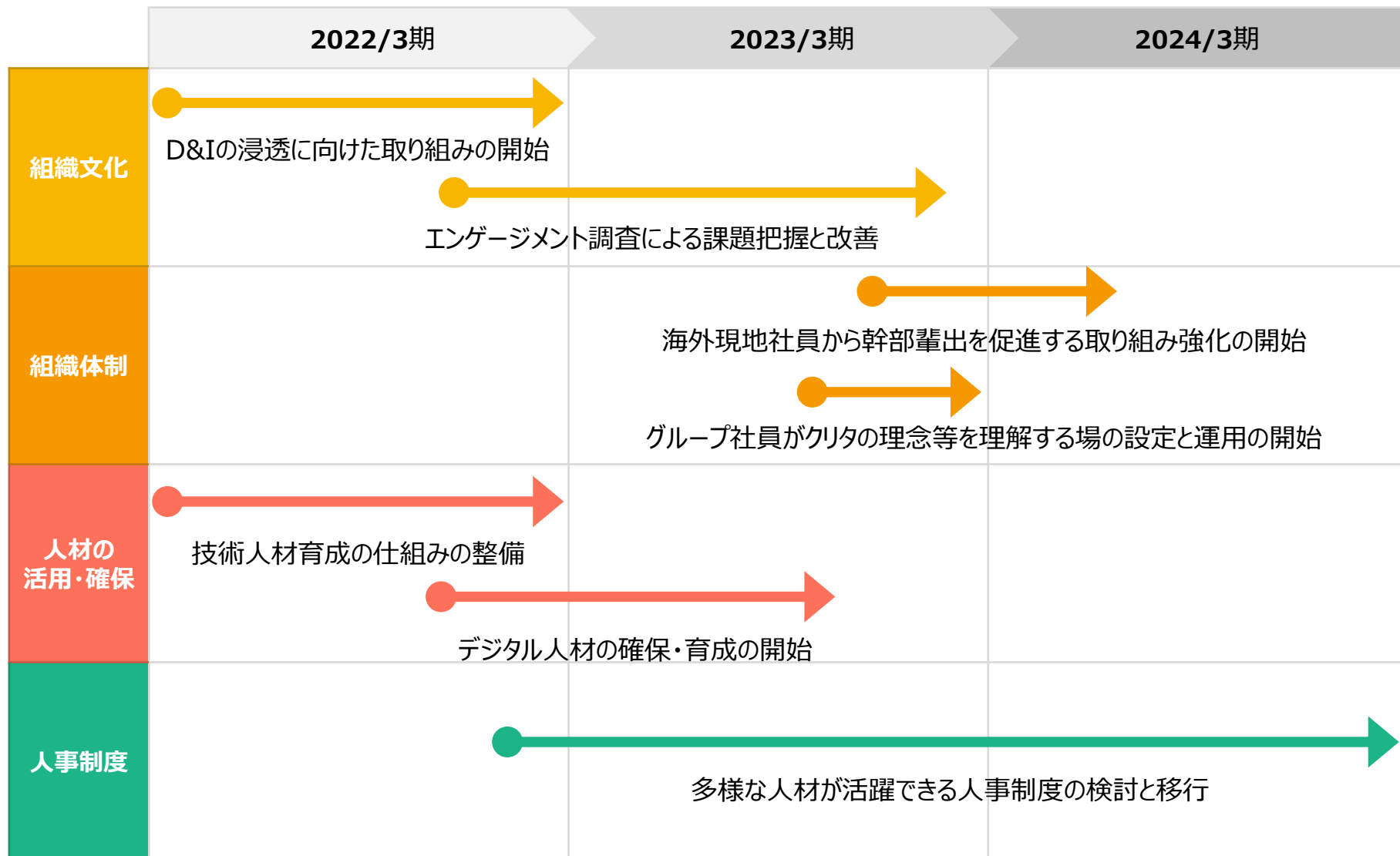
## 価値創造を推進する人材の育成を強化



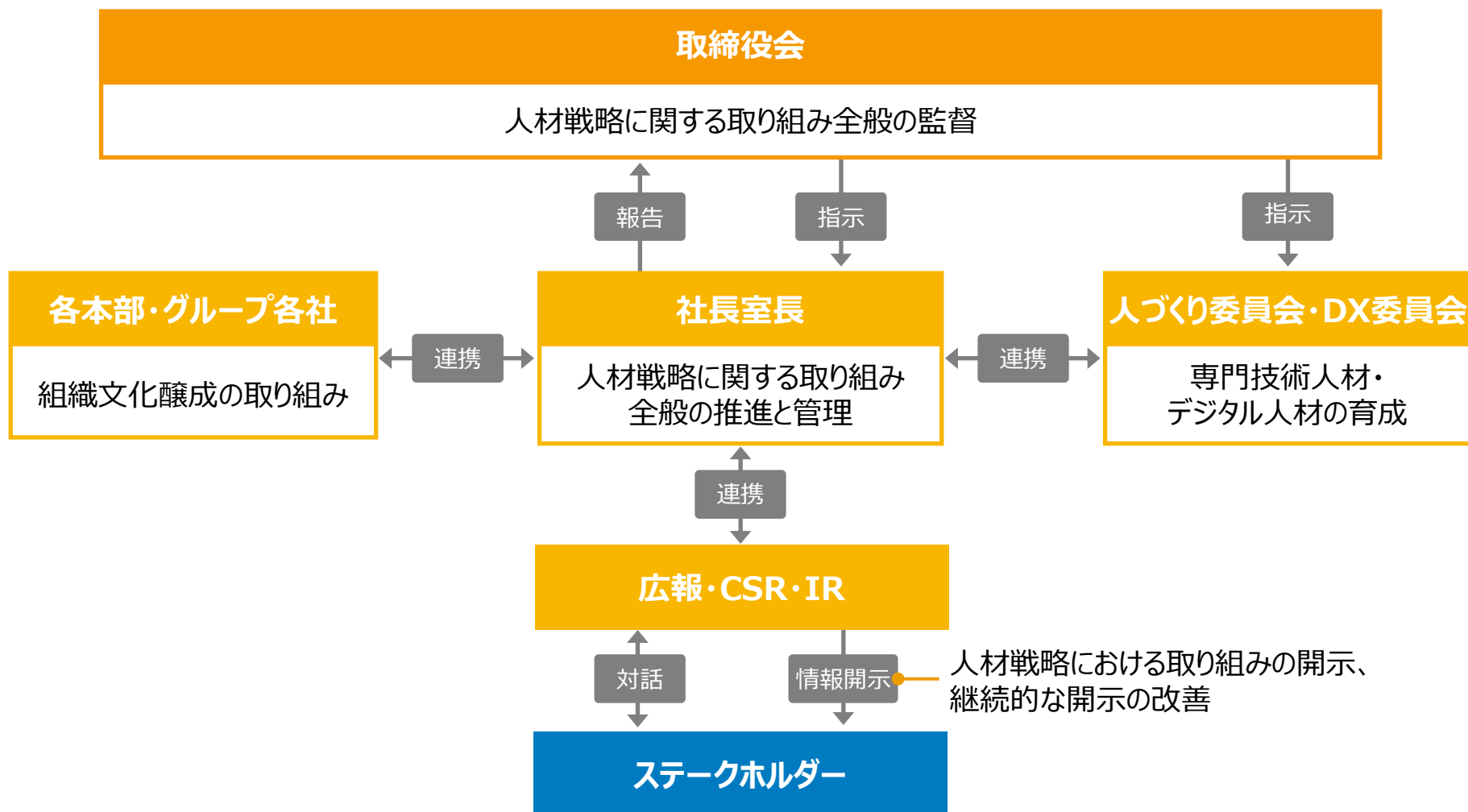


## 多様な現場接点とデジタル技術が融合した事業を創造





## 取締役会がコミットする推進体制



## 3 | 社会との共通価値創造の推進

---

経営管理本部 CSR・IR部  
部長

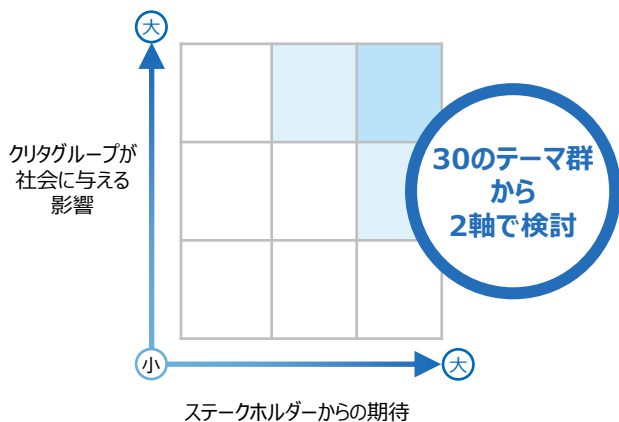
新井 孝輔

## 守り（リスク対応力強化）と攻め（CSVによる事業競争力の向上）

### 企業理念の再確認

### CSRの定義と取り組む目的を整理

### 重点的に取り組むテーマ （マテリアリティ）の検討



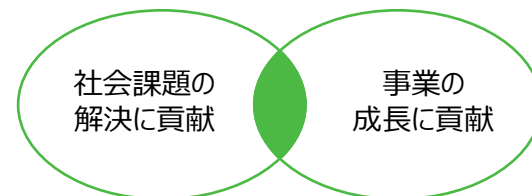
### CSRに関する方針

水と環境の問題にソリューションを提供し、未来への責任を果たす




#### 重点的に取り組むテーマ

| 基礎テーマ                 | 成長機会テーマ              |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 安全性の高いサービス・製品を提供する | 4. 水資源の問題を解決する       |
| 2. 公正に事業を行う           | 5. 持続可能なエネルギー利用を実現する |
| 3. 人権を尊重する            | 6. 廃棄物を削減する          |
|                       | 7. 産業の生産技術を進歩させる     |

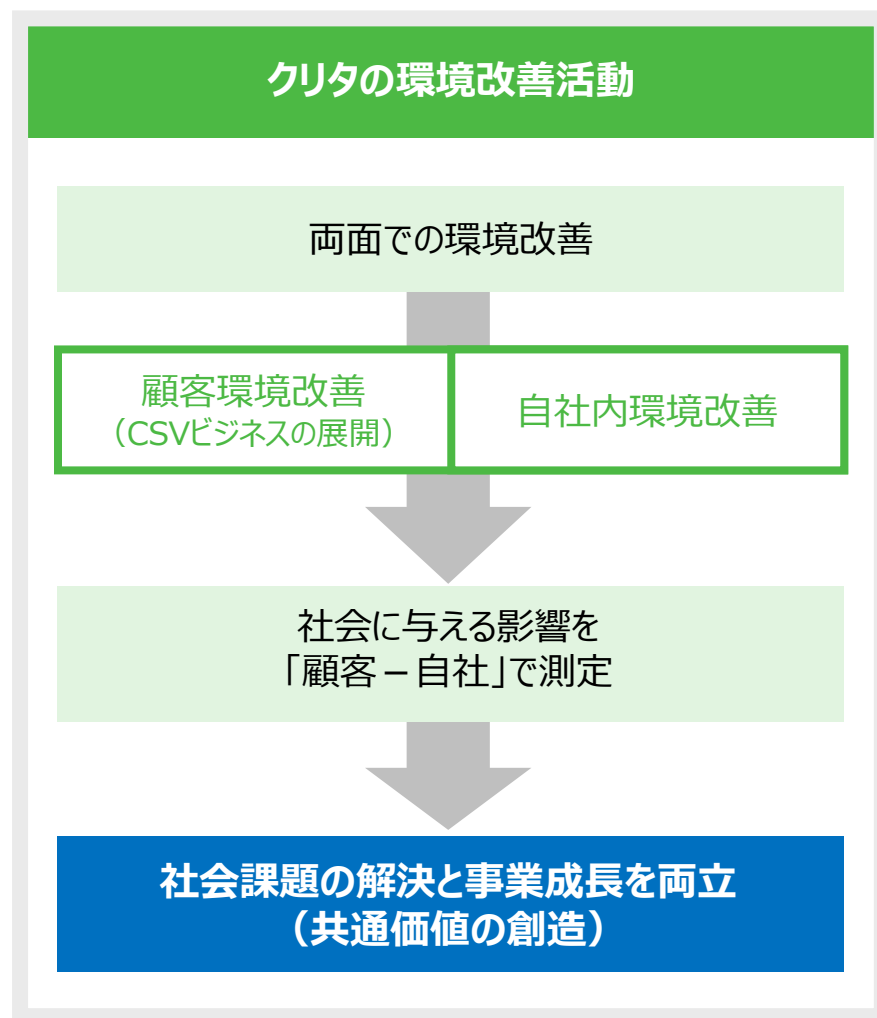
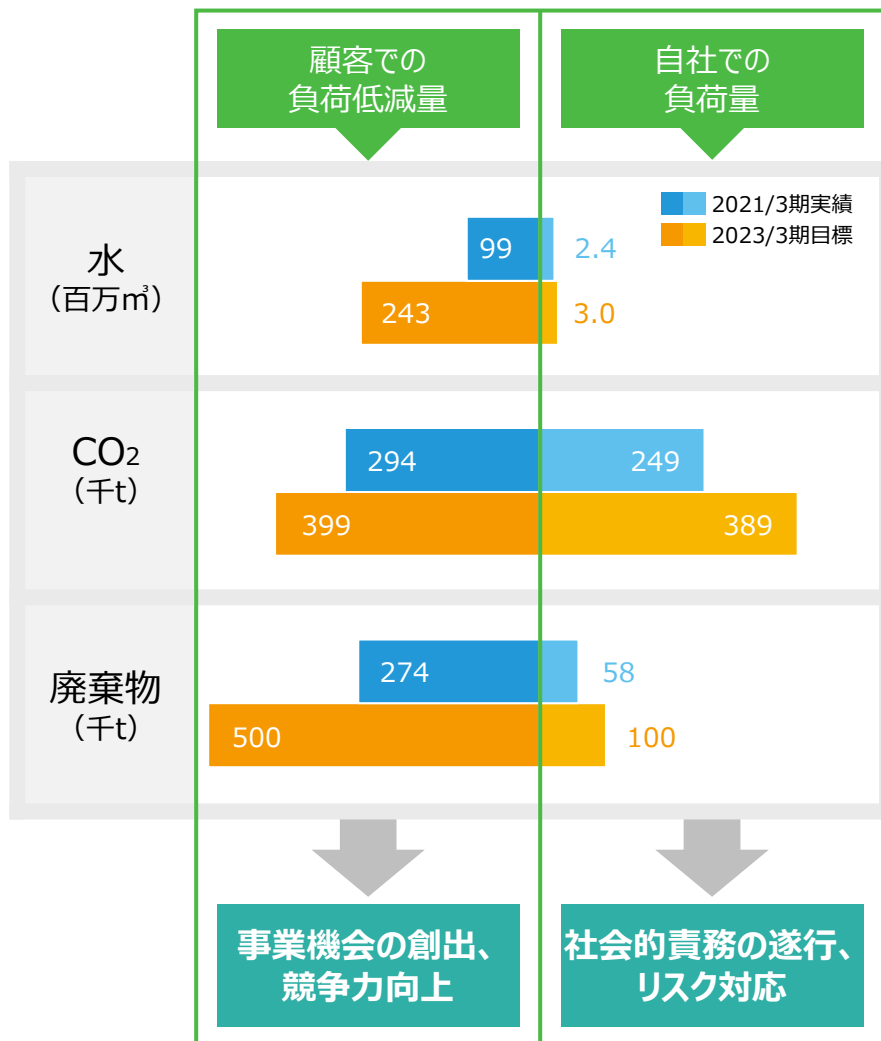
#### CSV (Creating Shared Value)



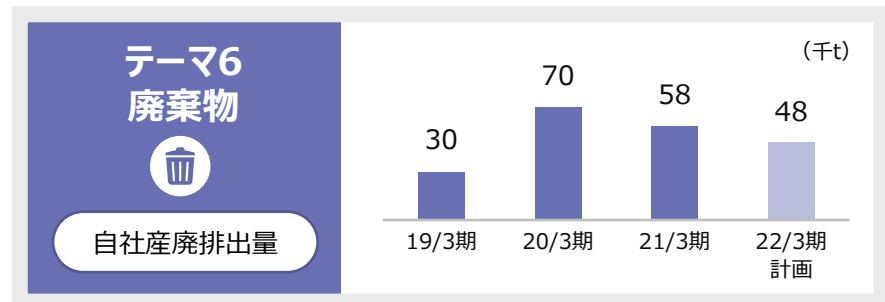
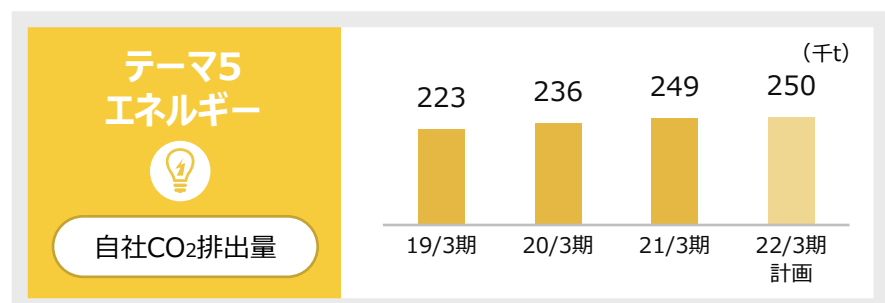
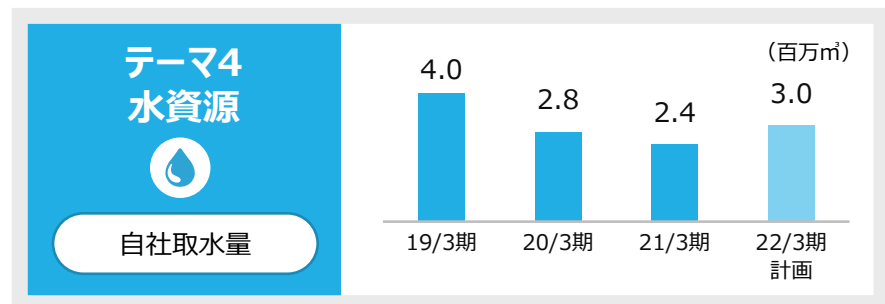
## クリタの事業特性と社会的要請を踏まえた取り組み

| テーマ  | 指標                | 分類  |           |
|--|-------------------|---|-----------|
| <b>テーマ4</b><br>   | 水資源の問題を解決する       | 顧客節水量 - 自社取水量                                     | クリタの事業特性  |
|  |                   | 水資源に関する問題の改善で貢献する人数                               | 国際的イニシアチブ |
| <b>テーマ5</b><br>  | 持続可能なエネルギー利用を実現する | 顧客排出CO <sub>2</sub> 削減貢献量 - 自社排出CO <sub>2</sub> 量 | クリタの事業特性  |
|  |                   | Scope1,2 削減                                       | 社会的要請     |
|  |                   | Scope3 削減   | 社会的要請     |
| <b>テーマ6</b><br> | 廃棄物を削減する          | 顧客排出産廃削減貢献量 - 自社排出産廃量                             | クリタの事業特性  |

## 顧客・自社両面での環境負荷低減



## 社会的責務の遂行と経営リスクの低減



\* 目標を設定した2018年当時の考えに準拠しているため、GRIスタンダードにおける「取水量」やGHGプロトコルに基づき集計・開示しているESGデータと異なる。



## 事業機会の創出と競争力の向上

### CSV（Creating Shared Value）ビジネス

従来に比べ節水・CO<sub>2</sub>排出量削減・廃棄物削減に大きく貢献する商品・技術・ビジネスモデル

（2021年3月期：全48種）

### 選定基準

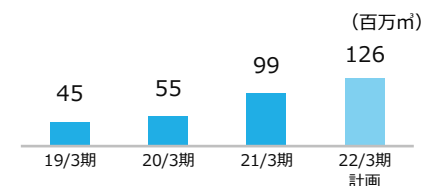
- 必須** 従来/競合技術への優位性
- 必須** 新規技術または既存技術の新市場適用
- 必須** SDGs行動計画への貢献
  - クリタグループのScope3削減に貢献（新規追加）

### 経営管理指標

- 環境負荷低減量
- 受注高
- 事業利益率

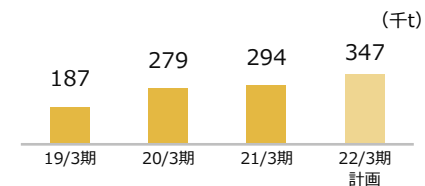
### テーマ4 水資源

- CORRシステム
- RO膜薬品 など



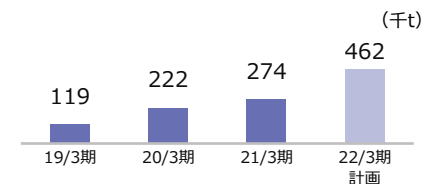
### テーマ5 エネルギー

- Kurita Dropwise Technology
- IoT活用水処理システム など

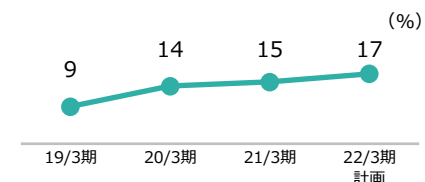


### テーマ6 廃棄物

- 凝集センサーによる排水処理3Sソリューション
- 排水汚泥減容・資源化 など



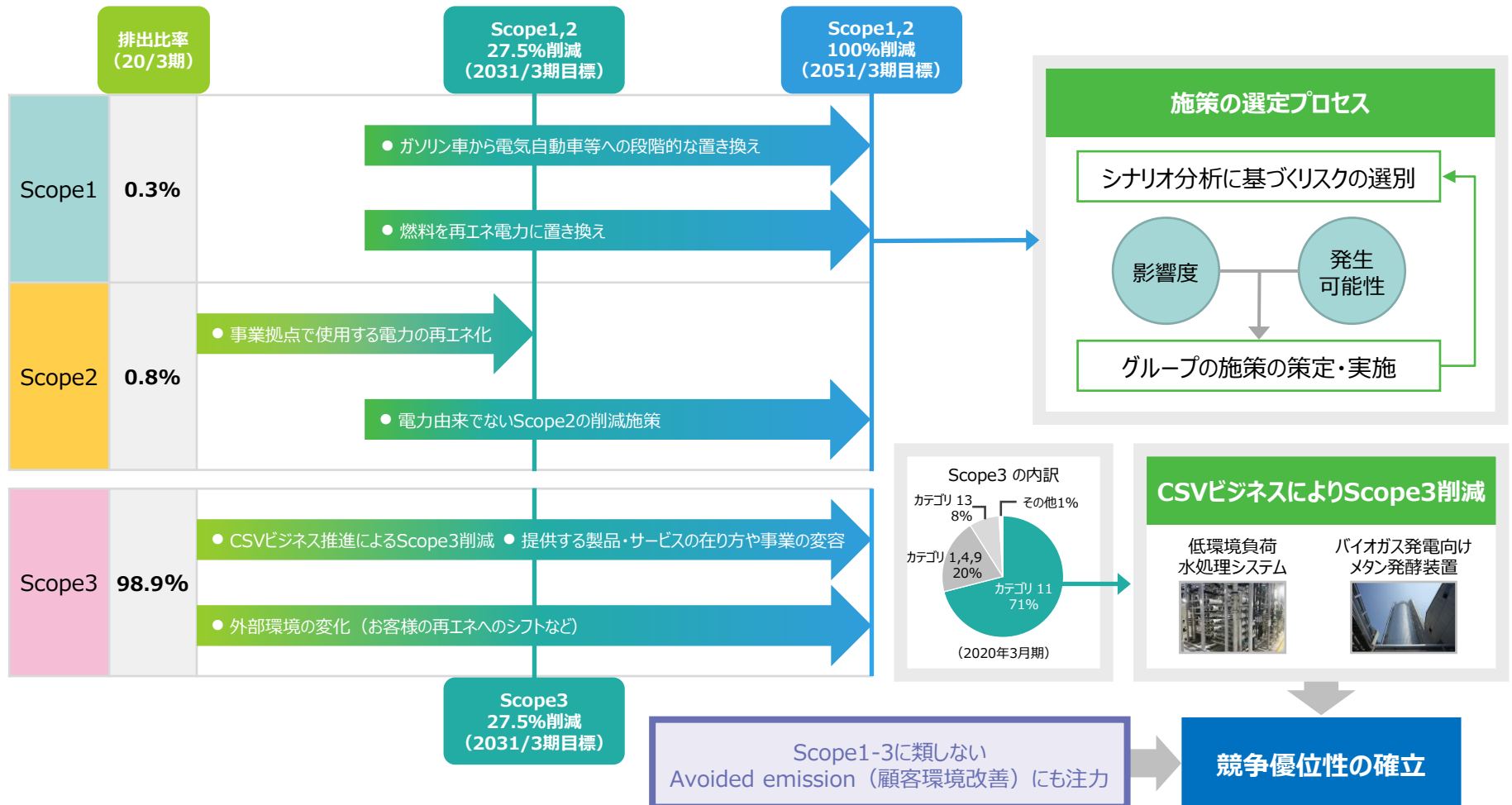
### CSVビジネス受注高 （売上高比率）



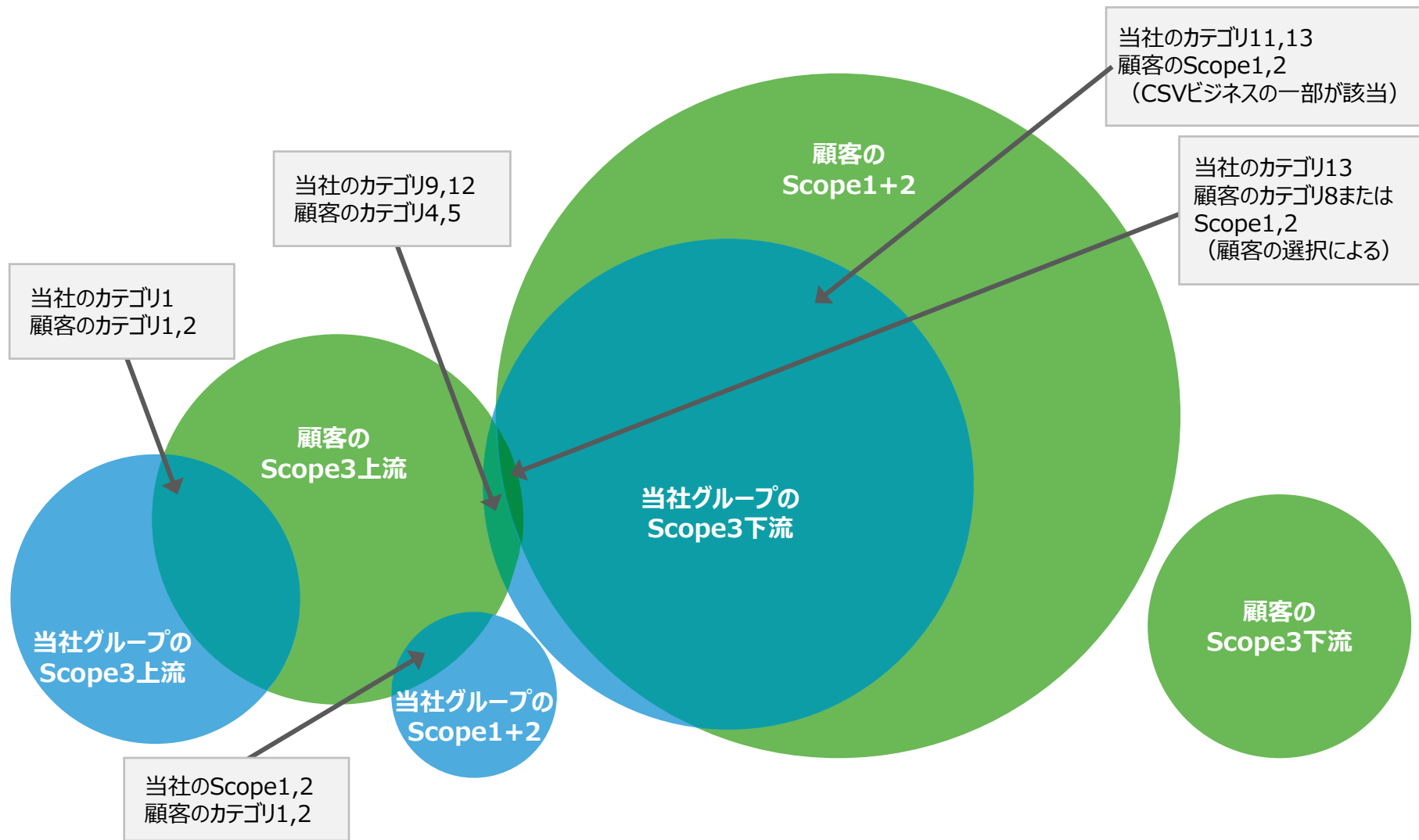
- 各地域・市場で注力する CSVビジネスの選定と展開

- 環境価値の業績評価への活用

## SBTiが示す手法に沿って 「Well-below2°C水準（2°Cを十分に下回る水準）」にて目標を設定



# クリタと顧客のScope1,2,3の関係



注) 円の大きさは当社グループと顧客の排出量をイメージしています。製品・サービスの特性により、当社グループのScope1-3と顧客のScope1-3との重なりは異なりますが、現状予想される一般的な概念で示しています。

## 産業界主導の取り組みに設立会員として参加

### Water Resilience Coalition

#### 2050年ビジョン

世界的な水レジリエンスの確立 …………… 必要な場所に、必要な量と質の水を安定的に供給できる世界をつくる

#### 誓約



水資源の問題が深刻な流域における水量、水質、水アクセスの改善



公共団体や企業への働きかけを通じた、水問題に対する関心の世界的な向上



水資源の問題解決に向けたバリューチェーン全体での取り組み

#### 国連グローバル・コンパクト



#### The CEO Water Mandate



#### Water Resilience Coalition



#### 設立会員（11社）

- アンハイザー・ブッシュ・インベブ
- デリアジオ
- ビービーエイチ
- ギャップ
- マイクロソフト
- カーギル
- ダウ
- エコラボ
- スターバックス
- スリーエム
- 栗田工業

#### 参加企業



#### 一般会員（15社）

- コカ・コーラ
- ウールワース
- カミンズ
- リーバイ・ストラウス
- インターコンチネンタルホテルズグループ
- ダノン
- コルゲート・パーモリーブ
- ハイネケン
- グラクソ・スミスクライン
- フォスアグロ
- デュボン
- マーズ
- レキットベンキーザー
- バイエル
- プラスケム

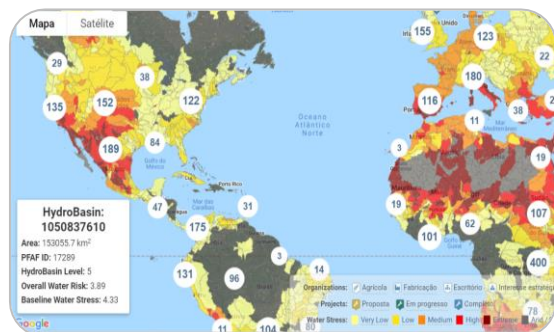
（2022年3月現在）

## 「水に関する知」の活用と新たな知の獲得



### 世界的な水レジリエンスの確立

- 流域活動の成果測定指標・報告様式の策定への参画
- 水に関する包括的なプラットフォーム“Water Action Hub”の機能拡充



ルール普及と情報開示の推進

### 集合的取り組み



### 参画



WRC会員企業/NGO  
+  
その他企業/NGO、  
官公庁等

- 水資源に関するプラットフォームづくりや取り組みの標準化

北米での水資源問題解決に向けた流域活動に着手

### 流域

コロラド川  
(米国7州)

### 方法

当社ソリューションを活かした  
集合的取り組みの検討



活動の実施と活動流域の拡大



### 将来見通しに関する注記事項

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

本資料内で使用している商標（製品、サービス、ロゴ）は、当社または当社に使用を認めた権利者に帰属します。